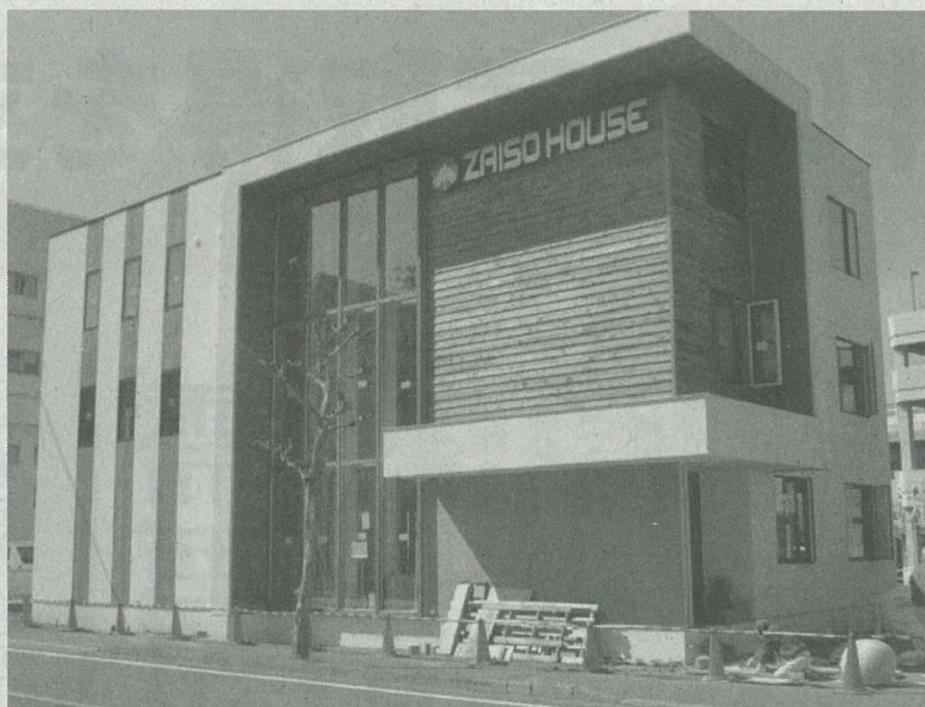


ZEB
探訪

濱木屋ビル

【愛知県名古屋市】

CLTを積極的に活用

非住宅分野では珍しい
現できる

木造ビル「濱木屋ビル」(愛知県名古屋市中区、3階建て、延床面積493平方メートル)が3月末に竣工する。基準ビルに比べた一次エネルギー削減率は10.1%と、極めてハードルが高いとされるZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)をクリアした。

「断熱にはこだわったが、工夫すれば特殊な設備を使わなくてもZEBは実

用できる」
不動産・賃貸業の濱木屋の鈴木興太郎社長はそう話す。同社がコインパーキングとして利用していた土地に建てた。ビルはグループのザイソウハウスの本社ビル用に貸し出す。こだわった断熱とは、ま

をミックスするという手法は北海道などで一部見られるが、この地域では稀。ローテクではあるがこうした熱の徹底した遮断はZEBに欠かせない」と鈴木社長は言う。

窓にも工夫が見られる。真空層が2つあるトリプルガラスの樹脂サッシは熱の出入りを防ぎ、結露も発生しにくい。多用したおよそ幅1.6×高さ1.5メートルの窓は住宅用の規格品を採用したことで、「断熱性は一般の製品の3倍でも価格は15%アップ程度」で済んだ。パッシブ手法を取り入れることでエネルギー負荷の抑制も図った。たとえば吹き抜けだ。天井部に自然換気する装置を付け、夏場にこもりがちな暖気を無電力でうまく逃がせる構造にした。

木の利点が随所に

柱にCLT(Cross Laminated Timber=直交集成板)を用いたことで木材でありながら強度をもたせた。CLTは厚み

のある板材を木目が直角に交わるように重ねて接着した積層材。欧州では1990年代から利用が広がり、大規模施設や中高層建築物にも活用されている。国土交通省が16年4月からCLTを構造成材として使える新基準を定め、個別に国交相の認定を受けなくても建築できるようになった。

住宅用のトリプルガラスの樹脂サッシと木材がむき出しの天井

「CLTの国内利用はこれからだろうが、高い強度と精度が出せるので海外では10階建て以上のビルに採用されている。戦後の大植林政策で育った杉や檜は、成熟した後はCO₂をほとんど吸収しないので、どんどん利用していくという流れにある」
軽い木材は工期を短縮できた」と言う。

「CLTの国内利用はこれからだろうが、高い強度と精度が出せるので海外では10階建て以上のビルに採用されている。戦後の大植林政策で育った杉や檜は、成熟した後はCO₂をほとんど吸収しないので、どんどん利用していくという流れにある」
軽い木材は工期を短縮できた」と言う。

エネルギー削減10.1%の木造「ZEB」